

# 第1回千葉県食育推進県民協議会結果概要

1. 日 時 平成18年12月26日(火) 午後1時から4時

2. 場 所 プラザ菜の花 3階 菜の花

## 3. 出席者

(委 員) 赤坂委員、明石委員、木嶋委員、渡邊委員、岩渕委員、上野委員、杉野委員、鈴木(美)委員、鎌田委員、松田委員、本吉委員、鈴木(静)委員、高橋委員、平野委員、飯田委員、菊間委員、小嶋委員、嶋谷委員、松田委員、寺嶋委員、水永委員、山崎委員、湯浅委員、遠藤委員、龍崎委員、大木委員、寒川委員、松村委員、成嶋委員

(欠席) 豊田委員

(事務局) 農林水産部長、安全農業推進課長、安全農業推進課企画調整室

(関係課) 政策推進室、企画調整課、男女共同参画課、健康福祉政策課、健康づくり支援課、児童家庭課、衛生指導課、資源循環推進課、生涯学習課、特別支援教育課、学校保健課、文化財課、農林水産政策課、耕地課、農村整備課、農業改良課、生産振興課、畜産課、水産課、農林振興センター(千葉、東葛飾、印旛、海匝、山武、長生、夷隅、安房、君津)

(その他) 千葉農政事務所消費生活課

(傍聴者) 2名

## 4. 次 第

1 開会

2 農林水産部長あいさつ

3 千葉県食育推進県民協議会について

4 委員の紹介

5 会長及び副会長の選任について

6 議事 (1) 千葉県食育推進計画策定支援作業部会について

(2) 千葉県における食育の取り組みについて

(3) 千葉県食育推進計画の策定について

(4) その他

## 7 閉会

### 5. 結果概要

#### 1. 開 会

【司会】 委員定数30名のところ、29名の委員の出席により、半数以上の委員の出席の要件を満たし、当協議会は成立していることを報告。

#### 2. 農林水産部長あいさつ

【農林水産部長】 この県民協議会は、千葉県における食育の総合的かつ計画的推進に向け、食育推進計画の策定並びに食育推進に関する施策についてご意見を伺うために開催するものです。公私ともに大変お忙しい皆様方に快くお引き受けいただきありがとうございます。

現在、食を取り巻く環境は、さまざまな問題を指摘されています。柔らかい食べ物を食べるために、かむことが苦手になってしまった子どもたち、また、朝食を抜きましてダイエットに励む中高生、さらに生活習慣病の危険性を抱える大人の増加と、危機的ということも言われています。

このような中、県では食育の推進を平成16年度から戦略プロジェクトの中に位置づけ、庁内横断的な推進体制のもと、児童が食に関する学習を行う「いきいきちばっ子ノート」の配布、さらに、小中学校で地元の特産物をみずから育て収穫し、そして味わうまでの体験をする学習、さらにはホームページの開設や、食育ボランティア、また食育サポート企業の登録など、さまざまな施策に取り組んできたところです。

一方、昨年7月に食育基本法が施行され、この法律に基づく国の食育推進基本計画が今年3月に示されたところです。県では、県民一人ひとりが健全な食生活の実現に向けて地域ぐるみで実践するために必要な内容を盛り込んだ県の食育推進計画を作成することとしています。この計画は、白紙の段階から県民の皆様の参加を得ましてつくり上げていこうと、広く県民の方々から意見や提案をお聞きするために、各地域でタウンミーティングを開催したほか、学校栄養士や保育所関係者、また企業などから個別に意見を聞くミニタウンミーティングを色々な分野の方々と行ってきたところです。

今日は、これらタウンミーティングでの意見やデータなどを材料に、計画策定の方針や、計画に盛り込む必要な項目などのご検討をお願いしたいと考えています。忌憚のない多くのご意見、ご提案をいただき、よりよい計画の策定に向けてご支援、ご協力を、よろしくお願ひしま

す。

### 3. 千葉県食育推進県民協議会について

安全農業推進課長から、資料2により、「千葉県食育推進県民協議会設置要綱及び傍聴要領」並びに「千葉県食育推進計画策定支援作業部会設置要綱及び傍聴要領」の概要を説明。

### 4. 委員の紹介

司会から、出席委員を名簿順に紹介。（委嘱状は、手元に配付）

### 5. 会長及び副会長の選任について

委員の互選により、会長に明石委員、副会長に遠藤委員を選出。

【明石会長あいさつ】 今、子どもたちの体とか、食べ方とかが問題になってきています。例えば、千葉大附属小学校で12月に校内のマラソン大会をやっています。1年生から6年生まで、約2キロから3キロぐらい走るのでしょうか。5年生や6年生の男の子の肥満が結構増えているのですね。ふだん見たらわかりませんが、走ってくると一番わかりやすいのですね。逆に女の子たちはスリムといいますか、ダイエット気味かなという感じが非常に気になりました。

学長が園芸学部出身でサツマイモの有名な研究者です。千葉県はサツマイモの生産額ナンバーワンというのは、私は食育懇話会の座長をさせていただいて初めてわかりました。サツマイモは薩摩かなと思っていたら、千葉県は青木昆陽の神社があるように、生産額もナンバーワンということです。たまたま学長に附属小学校の給食に来てもらったのです。その中で、子どもたちがサツマイモの原産地はどこでしょうかと質問するのですね。さすが6年生はすごいと思った。どうも南米らしいのですね。何種類あるでしょうかと言ったら、たくさんあるんだけど、まあ、200ぐらいあるだろうなど。食材の研究というふうな形でいって、次に、たまたま年中行事的な内容がありまして、6年生がはしを使っていたのです。見てみますと、うちの場合は40名いて、はしがうまく持てない方が2割3割いるのですね。これはだれの責任でしょうかというのがありまして、はしの持ち方ができないと、鉛筆を正しく持てないのですね。人差し指が使えませんから。この辺も、しつけと文化を絡めて見ると非常にわかりやすい。

6年生は残り物が少なかったのですけども、残飯が出ます。この残り物はどこに行くのでし

ようか。昔はよく「ビール瓶の旅」なんてあったのですね。ビール瓶を持って行ったらお金が返ってきましたから、キリンとかアサヒがみんなラベルを張っていきますよね。こういうのを「ビール瓶の旅」と言ったのでしょうか、給食の残ったものはどこにいくのでしょうかねということを見ると、食と環境という問題が見えてきやすい。

こういう食に関する事柄は、色々な実践を踏まえ、色々ありますけど、まだ総合的に千葉県バージョンといいたいでしょうか、千葉県版がまだ足りない。だから、こういう形の策定の作業があるかと思っています。一番欲しいのが、食に関する県民運動をどのように進めたらいいかなど。文科省は、「早寝・早起き・朝御飯」というので、かなり定着してまいりまして、実践をしていただいています。

もう一つ、薩摩で薩摩隼人を育成したのは、「山坂達者か」と。山と坂をアップダウンしまして、非常に運動して達者になろうという「山坂達者か運動」が明治維新をつくった薩摩隼人の基礎基本をつくったという、そういう運動を起こしています。

もう一つは、よく学校で朝読書をやっておりますけども、薩摩は、「朝読み夕読み」。朝でも本を読みましょ、夕方本を読みましょというのを江戸時代からやっていたのです。

そういう、皆さんがわかりやすい言葉で、できたら大和言葉あたりで、うまくこの協議会の中で、次年度以降の食に関する県民運動ができればなと願っております。よろしく願います。

【遠藤副会長あいさつ】 人の何よりの幸せというのは健康だと思っています。健康で過ごせるということは何より幸せなので、これを次代に伝えていきたいなと思っています。会長を初め皆さんのお力を借りながら進めていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

## 6. 議 事

明石会長を議長に議事を進行。

議長が設置要綱に基づき当協議会の公開の取り扱いを説明の後、傍聴希望者2名が入室。

### (1) 千葉県食育推進計画策定支援作業部会について

作業部会の委員7名の指名について審議を行い、タウンミーティングを通じ委員として参画している大木委員、寒川委員、松村委員の3名及び教育や家庭の領域から杉野委員、健康・栄養分野の学識者の渡邊委員、消費者の立場の平野委員、副会長の遠藤委員の7名の提案があり、

了解を得て、作業部会委員に選定。

### (2) 千葉県における食育の取り組みについて

事務局から、資料3により千葉県における食育の取り組みを、資料4により食育懇話会や食育シンポジウムの意見の概要を、資料5により県食育推進計画、タウンミーティング等の実施状況を説明。

【議長】 非常に興味深いのは、タウンミーティングの777名の意見が非常に貴重だと思っている。これらを踏まえて、何か質問、意見はあるか。

食のNPOというのは千葉県でどのくらいあるのか。全国でNPOは3万を超え、千葉県も初期は1,000件あって、今もものすごく伸びている。3年か4年前のデータでは、一番多いのは福祉関係で、2番目が生涯学習。スポーツは意外と少ないようであるが、食に関するNPOというのはどうか。どなたかわかるのか。NPO法人で、例えば遠藤委員のところを仮に加えるとすると、どのくらいか。

【遠藤副会長】 事務局の方で何かあるか。

【事務局】 NPOの活動区分の区分けが必ずしも食というテーマで区分けがされていないため、それぞれの活動内容を読み込んで、食育に関係するかどうか見ていく必要があるため、詳しい数字は持ち合わせていない。

【遠藤副会長】 食に限ったNPOというのはまだ見かけないと思う。しかし、色々な体験を受け入れているNPO団体のかなりの部分が、食とか農とかの食農体験を行っている。NPOではなくても、八日市場のふれあいパークや富楽里や三芳の鄙（ヒナ）の里など、色々なところで食の体験をやっており、取り組みはかなり広がっていると思う。

【議長】 県の取り組み状況を踏まえ、次に計画策定の方向性をこの協議会で検討し、作業部会に具体的な作業を委託する段取りで進めたい。

### (3) 千葉県食育推進計画の策定について

事務局から、資料6の「第1回千葉県食育推進県民協議会において検討いただきたい事項」を基に、特に検討いただきたい事項について考え方を提示した後、参考資料1の「千葉県食育推進計画の策定方針について（案）」を説明。

【松田（一）委員】 千葉県医療計画や健康ちば21など、幾つか関連がある県の計画があると

思うが、これらの計画に対し、食育推進計画の位置づけはどのように考えているのか。

【事務局】 参考資料2の1ページの2に「食育推進計画と県の関連する計画との関係」を記載している。健康づくりの分野では健康ちば21、教育分野では、千葉の教育・夢・未来2025、その他、次世代育成の関係の行動計画など、食育に関連性を持つ県の計画は多々ある。

こうした関連する計画や施策との整合を図りながら、一体として食育の推進を考えていきたい。計画をつくっていききたいと考えている。例えば食育推進計画の中での、健康づくりの分野は、健康ちば21との整合を図りながら進めていきたい。

【渡邊委員】 参考資料1の3ページの策定手順の最後の「推進計画の決定・公表」に、「日本一の安心農林水産物千葉ブランド」とあるが、食育推進計画が突然千葉ブランドという名前になりよくわからない。どう理解すればよいのか。

【安全農業推進課長】 「千葉ブランド」という言葉と食育との関連に違和感があるが、これは、県の重要施策のプロジェクト名で、その中で食育が位置づけられているということで理解いただきたい。千葉県の農産物と食育が直接的にリンクするというわけではない。

【事務局】 資料3の4ページの「戦略プロジェクト3. 日本一の安心農林水産物「千葉ブランド」の確立」に食育が位置づけられており、この中の組織の名称である。

【松田（一）委員】 健康ちば21などとの整合性を図ることについて、具体的な考えがあれば説明願いたい。

【事務局】 県庁内のプロジェクトには健康分野の課も入り健康ちば21などをにらみながら、プロジェクトに参画している。健康ちば21は、見直し作業が進んでいるが、その進捗状況と合わせ、健康づくりの考え方を反映させた計画をつくっていききたい。また、健康ちば21の見直し作業は若干遅れているが、例えば、5か年の計画期間の中で見直しということも考えており、関連する目標をペンディングし、健康ちば21ができたなら、それを取り込んでいくなど、今後の計画づくりの中でうまく整合が図れるようにしていきたい。

【議長】 資料3の「ちば2006年アクションプラン」の戦略3に日本一安心の農林水産物「千葉ブランド」の確立があり、戦略4に「健康づくりふるさと構想」の推進がある。この中で今回の食育はどこに位置するのかを説明願いたい。

【事務局】 戦略3の日本一の安心農林水産物「千葉ブランド」の確立の中に、食育がテーマとして盛り込まれている。一方、食育推進計画は、関連する分野が広く、次世代の育成や健康づくり、あるいは子どもの教育など、色々な分野に関わっており、アクションプランの施策の

まとめ方、くくり方とは違ってくる。「健康づくりふるさと構想」の中でも、食育にかかわる施策が散りばめられており、こうしたものを食育推進計画という目で集め、関係課の協力のもと、協議会に情報を提供しながら食育というくくりの中での総合的な計画をつくっていかうと考えている。

【議長】 千葉ブランドでは農林水産部が主務だけれども、食育推進計画では7つの部から色々なセクションで集まり議論していくことですね。

【事務局】 それぞれの分野で関係する課が主体になり、連携を図りながら、食育推進計画をつくっていかうとするものである。

【上野委員】 非常に目標をたくさん上げているようなイメージに受け取ってしまう部分があり、私のイメージでは、健康、長生き、そして充実した人生を送れる人間づくりというのが最終的なテーマになるのかなと思いつつ、それぞれのライフステージで、それぞれの団体が同じ目標を持って活動するというものかと思っていた。それを達成するための一つの手段というのがテーマになっていきがちな部分があるような気がするが。

【遠藤副会長】 いいテーマだと思う。テーマの部分で、健康づくりという部分は健康福祉部が担い。そのほか、子どもたちの教育という部分では教育庁が担うといった格好で、テーマは1つ大きく共通のものを掲げながら、それぞれが担う、そして、実際の事業の取りまとめを農林水産部の安全農業推進課が担当するというように理解しているがどうか。

【議長】 次の「施策展開の方向」や「運動展開の方向」を説明した方が、わかりやすいと思うので、事務局から説明願いたい。

【事務局】 参考資料2の「食育の推進を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項」及び参考資料3の「食育を地域に根ざした県民運動とするために必要な事項」を説明。

参考資料4の「ちばを知ろうー千葉県食育をめぐる現状と課題ー」は、構成のみ紹介。

【議長】 各委員から質問、意見をいただき、方針（案）の審議をしたい。時間がなく発言できない場合は、メールや手紙などで事務局まで意見をいただきたい。

【赤坂委員】 食の問題には色々な切り口があることは周知だが、国では、内閣府が所管し、食を通して縦割的なものをなるべく消すという方針である。健康づくりの中では、県民のモチベーションとしては食の問題は大事である。健康づくりから、もう一度、地元の食材というものに食卓という中で入っていただきたい。この協議会では、やはり健康づくりの面で食育を考えていくという点が重要である。もちろん各ステージがあるが、子どもの分野では、健康の間

題、まさに食の問題は、本来、家庭の問題であるが、日本の色々な生き方の問題も含めて、現実に家庭の機能がくずれ、子どもたちの育児支援の根本は分散して、集団保育にきており、幼稚園、保育園、それとともに学校保健の中で、総合的にどうやって食育を進めていくかということが一番大事である。この資料では、健康づくりの中で成人のメタボリックシンドロームのことがあんまり大きなテーマになってない。国の食育推進基本計画を見ると、メタボリックシンドロームが非常に大きな柱になっている。メタボリックシンドロームは幼児から始まっている。動脈硬化がもう子どもから始まっている。まず健康づくりの方を十分に協議会で議論してもらい、その中で、低年齢のときに味覚教育をどうやって現場でしていくかが大事だと思っている。多様な味を感じることで食の幅の広さが必ず培われてくる。そうしたことから、健康づくりというものの方向性を関連する部局とよく連携をとりながら、そちらの部局からの発信、私たちの方からも発信し、どんな方法をとっていくかということをも十分検討することが大変大事な点だと感じた。

【議長】 食育というのはみんな大事だと言ったら、どこからも始まらないので、どこかをベースに置いた方がよいのではないか。例えば一番大事なことは健康・体力ぐらいまで。要するに体のことを重んじる、千葉県らしさは、体全体のことをまず見ていくのだと。「健康」というキーワード、「体力」という事柄でいってはどうか。私がつけ加えたが、赤坂委員から、健康という非常に大事な提案があった。

【菊間委員】 食育といたら、1つは健康が、もう一つは、しつけというものがあると思う。「食」という字は、人が良くなると書いて「食」だから、そこへ行き着かなければ食育の意味がない。もう一つ、食育を考えていく場合に、家庭だけとか、地域社会だけとか、これは学校の仕事だとかということではなく、食の問題は、グローバルに考えていただきたい。日本の食料自給率が非常に低くなっている中で、いいものを食べていくということは大変なことで、我々生産者も少なくなっており、すんなりといかない状態にあることを踏まえた上で、食育というものをグローバルに考えていただきたい。庁内の関係課が網羅されているというのは、まさに食育の意味するところが非常に深いということだと思う。食育というものに対する自分の思いは、今の日本にとっては、美しい日本をつくっていくためには、この仕事が非常に重要であるということで、千葉県の千産千消や地域の活性化という意見がタウンミーティングの中にもあったが、それらを進めていく中で、私たちアグリライフは食育にかかわっていきたく思う。



【本吉委員】 「食育」という言葉は、やさしい言葉のように見えて、かなり深い意味があると思う。色々な切り口で食育を考えてはいけない中で、健康を保持するため、健康長寿のための食育ということの視点も1つあると思う。もう一点は、各地で健康のため、疾病予防のための色々な運動が起こっているが、疾病予防という見方から、このままでは病気になってくるかもしれない、その質を予防するための食育をするためにはどうしたらいいかという点が第2点。第3点目は、既に疾病になってしまった方々の食育をどうしたらいいか。さらに病気を悪くしないためにはどうしたらいいかということについての食育も重要。ここでは、生き生き元気でいくための食育のためにどうしたらいいかにテーマを絞っていくのがよいのではないか。

【小嶋委員】 協議会には、学識経験者や教育関係、医療関係、消費者、第1次産業関係者、NPOなど、多種多様な方が参加しているので、それぞれが今、食育について何をし、何が問題で、課題かを整理し、その状況を報告し合い、主体的に参画するという意味では、事務局提案を議論することも大事だが、共通認識を持っていくことも非常に大事なことと思う。食育基本法ができる前から、もう10年前から恐らく色々な形で、食育への取り組みがされている。例えば我々も、農業体験などをやってきてかなり普及してきたが、その後何を狙うのかという、新たなテーマが出てくる。そうしたことを横断的に意見交換しながら話し合っていくやり方も、これから作業を進めていく中では非常に大切ではないかと思う。

農業協同組合では、全国有数の農林水産業県で、たくさんの生活者がいる千葉県の土俵の中で、協同組合らしさが発揮できる食の教育を考えようと研究会をしている。食育は、余りにも広過ぎるといふところもあり、もう少し細かく、色々な触手で範囲を限定し、それぞれ意見交換をするのも大事。そんな形もぜひ必要なかと思うので、提案であるが検討いただきたい。

【議長】 非常にいい提案をいただいた。協議会委員には色々な団体なり個人の背景があり、それぞれの立場、また、自身の意見で、こういう切り口で千葉県の食育推進計画をつくってほしい、つくればいいという発言がいただきたい。

【大木委員】 今、非常に食があふれている。若い母親に聞くと、休みの日はコンビニの御飯を食べたり、ファーストフード店に行って朝食をとる、それがおしゃれだという話をよく聞く。自分が子どもを持った時に、本物を食べさせてやりたいと思い、子供たちに何か思い出になるもの、そして地域のもを食べさせようということで、学校の畑でつくったものを利用した食育に取り組んできた。この協議会に参加しているが、大きな組織を利用するのではなく、それぞれが地域に帰って、本当に小さな下積みから、各個人個人の家庭の方々に、食の今のあり方

を、肩肘張らず、道端で話をしながら進めていく、それで食育が一つ一つ重なっていくと思い、これまで取り組んできた。千葉県の食育と大上段に構えるのではなく、裃（カミシモ）を着ないで、裸で、個人個人が千葉県の地域の方々と話し合っ、実績を上げていくというのが一番いいと常々思いながら、ここに参加している。何の切り口からやっていくかというのは、一つ一つの家庭に、またPTAの、保育園、小学校、中学校、そういう段階を踏みながら、話をしながら、飽食の時代の中、もっと日本食を食べようという取り組みをしたらよいと思う。本当に草の根でやっていきたいと思っている。

【水永委員】 基本のテーマは健康ということに賛成。ただし、健康といったときに、家族を持っていれば当たり前だが、最近の若い青年たちに聞くと、いわゆる健康に対しての危機感がない。そして、日本人は長寿だという。こういう食生活をしていたら、長くは生きられないよといっても、長生きしなくてもいいという。健康長寿、生きるというところに対する認識が違うというところも含めて、検討いただきたいと思う。

国の食育推進基本計画や食事バランスガイド、県によっては、県なりのものをつくったりしているが、国の施策と千葉県の施策はどのようにリンクしているのか。国は国ということでのいか、事務局に伺いたい。

【事務局】 食育基本法に基づく県の計画で、あくまで国の基本計画を基本としながらつくっていくことになるが、その中で、ぜひとも千葉の特徴を生かした計画づくりをしたいと考えている。食事バランスガイドなどを活用していくが、いきなり実践といっても、なかなか取り組みが進んでいかない中で、もう少し県民にわかりやすいとか、取り掛かりやすいものを千葉県として工夫したらどうか、そうした方向でこの計画づくりを考えていければと思っている。国とは別ではなくて、国のものを基本としながらということである。

【安全農業推進課長】 国の基本計画と重なるところもあるが、基本的には、なるべく千葉県らしさというか、千葉県には多くの消費者も生産者もあり、多くの食育に関する取り組みをしている。また、県が取り組んできた食育懇話会、シンポジウムなどもベースにしなが、それらを十分に生かす計画をつくりたいというのが本心である。

【松田（一）委員】 この会議は色々な職種の方が出ている。限られた時間で方向性がすばつと割り切れるということは難しいと思う。我々が取り組んでいるピーちゃん落花生のように、色々とおもしろおかしくやるような、そういう新しい視点でやっていく方が、県民が注意を喚起してくれる割合が高くなると思うので、作業部会に千葉県らしさをうまく取り込んだ、色々

な職種でコラボレートできるようなものを考えていただきたい。

【松田（延）委員】 畜産協会では、BSE問題以降、安全、安心な畜産物を消費者に提供するという大きな使命がある意味では加わってきたことで、安全、安心に取り組む施策を実施している。食育では、千葉県が農業県である、生産県であるということを頭に置き、食と農の教育、食と農がともにはぐくむ、この精神を忘れてほしくないと思っている。

資源リサイクルという視点でコンビニ弁当の売れ残りの材料を使って、餌化する施設を建設しているが、こうした取り組みも若い人に理解させるような食育も大事ではないかなと思う。

また、生き生き畜産千葉サポートセンターというNPO法人の設立を申請しており、取り組みの1つに、消費者交流や動物ふれあい情操教育の推進を目的に、出前講義やふれあいのイベントの企画立案などを行うこととしている。畜産という狭い分野だが、ある意味では食卓を支える大きな部門なので頑張っていきたい。アメリカのトウモロコシのエタノール生産に伴う飼料輸入の減少と価格の高騰など、大きな問題点を抱える中、千産千消、餌も千葉でつくるというような理念、信念で取り組んでいかなくてはいけないと考えている。

【議長】 千葉県は酪農の発祥の県であり、千葉らしさにこだわると、酪農の面で、千葉の牛はおいしいとか。千葉牛というのはあるのか。

【松田（延）委員】 上総和牛というのもブランドがある。八日市場の方にも和牛のブランドがある。最近、県では、黒豚に負けない白豚ということで、酪農、畜産に力を入れると宣言しているので、畜産農家には心強い気がしている。

【議長】 千葉の肉を食べると長生きするとか、病気にならないとか、予防になるとか、何かそういうものが出てくるといいと思うが。

【松田（延）委員】 食品残渣利用の餌、「エコフィード」を使ったブランド肉、豚肉、あるいは卵、この辺を狙っている。生産者にとっては付加価値をつける、消費者にとってはおいしい肉、この辺がきちっと実現できないと余り意味がないので、その辺を狙いにしている。

【上野委員】 多くの学校で、総合的な学習等で、体験学習を行っている。農業であったり、畜産であったり、漁業であったり、地域ごとに取り組んでいるところだが、全部の学校で子どもたちが体験するということになると、年間計画の中にきちんと位置づけていかなければ、継続的に子どもたちが体験して身につけていくということがなかなかできない。農業、漁業、畜産と、協力してもらえる地域とか、あるいは学校の中でも、非常に関心の高い先生がいるときは熱心に活動をするが、異動してしまった段階で活動が途絶えてしまうという現状もある。

体験をするには、やはり費用がかかる。野菜にしてもただではない。農家の方も子どもたちのためにボランティアで協力いただいているが、継続的とか、全学校でやるとなると、大変なことになってしまう。体験が非常に重要で、子どもたちに役立つことはわかっているが、そういった裏づけがなかなかないのが現状で、こうした点も考えながら進めていただければありがたいと思う。

【鈴木（美）委員】 県内には約 600弱の認可保育所があるが、保育協議会の立場で発言させていただくと、千葉県は、全国 6 番目に人口が多く平均年齢が42.4歳ということは、将来を担う人材が多く生活をしている県ということ。それが 1 点、少子化が全国的に進んでおり、全国では特殊出生率が1.25、千葉県はそれよりさらに低いと認識しているが、その中で、人が育つ、人を育てるという視点を盛り込んで策定をお願いしたい。貴重な人材は、子どもたちなので、郷土を愛して、千葉県に住み着いて、千葉県のために生きていくという人材が育成されれば、本当にいいなと思う。そういう意味でも、健康づくりと、体だけではなく、心を育てたり、人を育てるということ。そこの部分での視点をお願いしたい。

【寺嶋委員】 資料3に「ちば2006アクションプラン」が挙げられているが、ぜひ食育の推進についての戦略のコンセプトというか、みんなで共有化する一つのコンセプトを持たないと、なかなか活動しにくい。戦略1から6があるが、戦略4と6をつなげると、何かコンセプト的な言葉になるなどと思って見ていたが、健康づくりふるさと千葉構想、みんなでつくる新しい地域社会、これが推進する戦略のコンセプトなのかと考えていた。戦略1、2、3は、これを実現する戦略というか、戦術になる。これを実現する上で、クラスター戦略が推進されたり、観光ちばが実現したり、農産物、水産物の千葉ブランド化が確立されていったりすると思う。一つのコンセプトと、具体的な目標が必要である。どちらかといえば、専門的な目標をつくるのではなく、今、一番問題なのは、いかに県民というか、消費者というか、お客様というか、おじいちゃんから赤ちゃんまで、どのようにわかりやすい言葉で伝えていくのかということが一番大切ではないのかと思う。そういう意味では、ここは千葉ということで、千葉の問題点というのは事実何があるのか。サツマイモが千葉で生産量、生産金額ナンバーワンということすら知らない。千葉の健康上で、日本の平均よりもいいところと悪いところはどこなのだろう、野菜、水産物が豊富な県だけれども、野菜の消費量は、年代別に見て、多いのか少ないのか、どうなんだろう。水産物はどうなんだろうということも、もう一度、簡単な事実から我々が一般の人たちに発信し、それをみんなで共有化しないと問題点は見えてこないと思う。

千葉にはこんな特徴があったんだと。そして、千葉のいいところは、こんな食文化が、いいところがあったんだということももう一度再認識し、その問題点を解決するためにどうするのかという目標を、数字でも、状態でも結構なので、きっちり設定をしていくということだと思ふ。それぞれの立場で食育に一生懸命取り組んでいる。一番問題なのは、これをどううまく融合させるかということだと思ふ。組織の水平統合というか、異業種を水平統合するというのは非常に難しいと思ふが、この協議会の中でどうやったらもっと無理、むらをなくしながらみんなで一つの運動としてパワフルなものに融合できるのか。一つの大きな組織づくりだと思ふが、この仕組みをどうやってつくるかというのが、食育の大きな課題かと思ふ。先ほどのコンセプトを実現するに当たっての一番のキーポイントは、横串を刺す、水平統合する仕組みを千葉で一つつくり上げて、全国に先駆けて、ベストプラクティスとして、千葉のすばらしい取り組みということで、日本の各県の食育をリーディングするということを実現できたらいいと思ふ。

【議長】 はっとしたのは、食に関して、千葉の問題点は何だろうかという、原点というか、事実をまず見よう。それに従ってコンセプトが出てくるはずだと。そのコンセプトを実施するためには、仕組みづくりがあると。今、事務局段階では、県がモデルをつくって、市町村にモデルを出して、それで家庭でお願いしたいというぐらいの仕組みはあるが、これはどこでも必要なことで、当然だが、それ以外の、色々なセクションが違う中で、串刺しがうまくいくような形の仕組みが欲しいなど。非常に大事な、また貴重な意見である。

【嶋谷委員】 千葉県魚連では、盛んに千葉の青魚を売っているが、いま一步というところである。千葉の青魚を食べて健康を進めようとか、そういうこともいいと思ふ。食育に関して一番懸念するのは、家庭で料理をしないこと。月に1回ぐらい、千葉県の食材を使って、学校給食に、強制的ではないが、そういう献立をつくってほしいと思ふ。

【渡邊委員】 食育推進計画は県によって、担当が健康福祉部だったり、農林水産部だったり、視点はかなり違っており、千葉県が農林水産部なのは当然だと思ひ話を聞いていた。確かに健康ということから考えると、健康福祉部ではさまざまな視点で、それぞれのライフステージに応じたことを、わかりやすいリーフレットの作成まで含め検討している。委員の何人かは健康福祉部の委員会に入って検討しているので、健康福祉部の委員会では食育への思いを伝え、健康づくりの思いをこちらに伝えようと思ふ。千葉県で大事なものは、色々なもの、野菜も、肉や魚も全部ここにいいものがある、千葉で育てていることを、県民にわかってもらう、食べても

らうというところがポイントだと思う。また、心の問題もうまく取り入れて、なおかつ、健康福祉部の視点では、学校給食の予算のことや、例えば学校給食の時間をもう少し増やしてほしいなどの提言は難しいので、具体的な、本当にできるようなことをお互いに考えてやっていくことがよりよいのではないかなと思う。作業部会を行うに当たっても、委員の方々の意見は細かいことでも構わないので、どんどんいただいた方が、色々な視点に立つてできるのではないかなと思う。

【上野委員】 学校給食の話をする、魚をどんどん食べてほしいという話があったが、学校給食では、千葉県の産物を使った献立づくりに各学校で取り組んでいる。食育の授業や、その他色々、給食の時間等にも、栄養教諭や学校栄養職員が、学校に届いている千葉県でとれるものについての資料などを活用し、食育の授業や色々な掲示物をつくったりし活動している。一方、体験については、農業体験や、漁業とか、そういったものが近くでできない都市部の地域もあり、そうしたところでは、自分たちで土地を借りたり、校庭の中に畑をつくって野菜をつくったりして体験し、それを調理して食べるといったようなことを授業で行っている。そうした取り組みを地域の団体がそれぞれ協力するような体制が円滑にできると、非常に効果的なものになると思う。

小学校、中学校、高等学校には学校栄養職員はいるが、食に関しては、小学校に上がる前が非常に重要である。保育所、幼稚園といったところでもう少し食に関しての関心を親子ともども持ってもらえるような環境づくりができるといいと思う。親も、子どもが生まれて初めて、健康についてや子どもの食について関心を持つので、そうした時期に健康教育に引き込むというのが非常に重要だと思う。学校に上がると、成績などに関心がいつてしまい、基本的なしつけや食に関する部分は二の次になってしまうというのが現状である。そうした意味で、幼児の部分での食育、取り込む方法もこの中で考えてもらいたい。

【議長】 寺嶋委員の提案にこだわりたい。各団体とか部局で、ここが千葉らしい、千葉で自慢できるもの、千葉の弱点だとかというのが出てきて、それで千葉らしさというのが各々出てくると、1本の串刺しになるかなと思う。それがないと、ばらばらになり方向性が定まらない。例えば懇話会でも話しがあったが、千葉県の保険医療請求は全国で2番目に低い。ということは健康県でもっと自慢していい。健康県である分析は難しいが、気候もいいとか、医療がしっかりしているとか、食の方で、幼児期からいい食生活をおくっているから健康な体を保っているのかとか、よくかんでいるからいいとか、そうしたことが出てくると、健康県、ますます健

康になり、長寿を目標に持ってくるなど、そういうこだわりがないかなと思っていた。魚でも、たくさんとれるが千葉県での消費量が低いとか。もし低いなら、なぜ低いのかとか、その辺のことを出してくれると、作業部会では数値目標を、もっと食べようということで持っていける。結局、作業部会が一番困るのは、ボワツとした課題があつて、やりなさいでは困るので、各委員からこういう数値目標、こうした千葉県らしさは出してほしいという提案があると、作業部会は作業しやすいと思う。そういう視点で何か意見はないか。

【鈴木（静）委員】 千葉県食生活改善協議会では45市町村が加入し、4,000人の推進員が活動している。食育基本法ができて以降、全国一斉に6月19日を食育の日として普及をしていると思うが、10月から3月までの間、毎月19日に、健康日本21に沿って、ヘルスサポーター21事業でメタボリックシンドロームの予防ということで、全市町村でパンフレットを配りながら、食育推進運動を実施している。各市町村で毎月19日と決めて、この運動をしているが、千葉県では、そういう日を決めての推進運動を予定しているかどうか。やはり健康にはすごく関心があると思う。我々は19日にパンフレットを、なるべく知らない方に配ろうということで、千葉駅など、色々なところで、各市町村別に配っている。そういう方法で何か千葉県もしたらどうか。千葉県独特の方法を考えているのかどうか。もし考えているとしたら、いい方法を見つけていただきたい。

【議長】 一つのヒントです。県民運動を進める場合に、県民の日は6月15日だが、毎月19日に1回やるとか。よく第3土曜日を家庭の日にしようとか、色々あるが、一つのヒントになるかと思う。

【山崎委員】 調理業界から参加しているが、食育についての色々な活動の中で、必要な団体の一つとして、千葉県調理師会や司厨士協会を活用いただければ、できるだけ協力したい。

【赤坂委員】 総論として、国の食育の基本は、特に栄養関係の有識者を含めて検討した食育ガイドライン、これは日本食をもう一度見直そうということが基本になっている。どの県であっても、どの市町村であっても、総論的なものは、串刺しの大事な部分として考えておかななくては行けない。各論の中で、それぞれの県としての特有な色々な問題点、あるいは事例などを考える。食育白書を見ると、かなり地域の色々な特性の問題を含めて、事例として対応している。食育の基本の中に、やはり健康づくりというものがあり、世界的な流れとしては、例えばアメリカやイギリスでは生活習慣病対策にシフトしている。しかし、フランスでは味覚教育である。もう一度、地域の食材を、味覚が決まる小さな年齢の時期に経験させる。そういうこと

が基本にあると、それぞれの県、あるいは地域で、それをどういうふうにするかというのが決まってくると思う。もちろん今の中高年の、現実に健康の食育と関係ある問題はたくさんあるが、ぜひ子どもの保健の問題、次世代を担う人たちの問題を千葉の中で立ち上げていただきたい。その中には堂本知事が取り組んでいる咀嚼というものも食育の問題点として含まれている。高度成長による世界の食のグローバル化により、子どもたちの生活習慣が一変し、みんなが同じ味のもの、同じものを食べ、日本的な食が今は崩壊し、最も西欧的な食になってしまった。アメリカの食生活のゴールがかつての日本的な食だったように、もう一度、私たちは、日本食を見直し、もとに戻るということが必要だろうと思う。それを総論の中でしっかりと見通しながら、各論の中で千葉という特殊性を出していくということかと思う。

【寒川委員】 作業部会の委員として今の議論を意識していたが、やはり食育というのは色々な取り組み方があるので、共通に持つ目標を一つ定めないとよくないと思う。今日の議論の中で、一つ、県民の心と体の健康を築いていこうというものを軸にまず1本据えると。それを実現するために、子どもたちとか、あるいは大人が、食材とか、食べ方というものを選ぶ力を高めていく。これは主に保健行政とか教育行政が中心になるが、そういう活動と、もう一つは、健康づくりのための安全、安心な食材、食品というものを特に旬のものとか、新鮮なものを供給していくこと。大きくは健康という目標と、それに対して、それを実現する姿として、選ぶ力を高めるということと、安全、安心な食品を供給していくということ、ここをこの委員会中の共通目標に据えてみたらどうかと思う。

【鎌田委員】 食品衛生協会は、食品を提供する側と、提供するための素材を仕入れるという、消費者の立場がある。これまで、食育について、健康そして自給率の向上をコンセプトに事業を行ってきた。千産千消ということで、千葉は農産・畜産・水産県だということだが、事業者側からすると、確かに生産高は高いが、いざ使おうとすると、すべて東京から仕入れることになり安定的供給がなかなか難しい。最近、農林水産部の努力下、近くで食材が手に入るようなシステムづくりをしているが、まだ十分ではない。そういう意味で、見える素材の供給ができるような施策が何かあったらいいと思う。畜産にしても、水産にしても、千葉らしいものが、なかなか手に入らない。小回りのきく流通、千葉らしい流通形態というものを取り入れてもらえばありがたい。

もう一つは、食の伝承である。我々の事業の中で、工場やお店などの見学会などの事業をしているが、食育に照らしてみると、健康と、自給率、いわゆる地場産業の取り入れをしたい、



それから、もう一つが食の伝承、この3つについて、わずかながらではあるが、事業をしたい。

【飯田委員】 農業者として、子どもたちを受け入れる側として一言言わせていただく。保育園、また学校の児童と体験したことだが、内容としては、バケツでの稲の栽培、宿泊体験、お米を使った米粉パンづくり、太巻き寿司づくりなど、栽培、調理、加工とこれまで色々なことを行ってきた。子どもたちが実際にトマトの木を見たり、それをつまんで食べてみたり、子どもたちの輝いた目や行動を見て、受け入れる側としてやってよかったと実感する。ですから、農業体験というものは作業部会でぜひとも大きく取り上げていただきたい。

【議長】 最後に、はっきりはしないが、キーワードというか、この食育推進計画の策定の方向性を出さなければいけないかと思っている。1つ、私が今日、非常に言いたかったのは、私の友達に千葉県の中学校の野球連盟の事務局長がおり、千葉県は中学、高校、野球王国だと言われて、いい選手を育成している。その方が千葉県の地域を見て、九十九里、銚子のあたりの中学生の体格はいい、身体能力は高い。東葛地域の子は野球はうまいが、身体能力はどうもよくない。そうすると、山武、匝瑳というか、太平洋でイワシを食べて、よくかんでいる子は非常に骨格ができていて、そういうDNAを引き継いでいるのではないかと。直感的らしいが、そういう千葉県の食生活のよさが野球王国をつくったかなと。これは暴論だが、そのような視点でいま一度、赤坂委員が発言したような、食生活の原点を見直すということである。

そういう意味で、私なりに意見をまとめると、やはり心と体の健康づくりを目指したい。2つ目は、知事がつくった「千産千消」という言葉がせっかく定着しているので、千葉でつくって千葉で消費するというのを、いま一度、それぞれの部局で見直していく。3番目に、原点に戻る。食生活の中の和食のよさをもう一度見直すとか、食べ方の問題で、はしの持ち方がいいとか、ごちそうさま、いただきますとか、日本の食生活のよさがあったのではないかと。その辺を含めて、原点に立ち返ろうと。事務局もそういう形でキーワードを用意しているので、今のところ、仮にそれぐらいの粗い観点で作業部会において検討してもらい、もし齟齬（ソゴ）があれば、作業部会で修正してくれればいいと思う。

ここで、確認したいが、事務局から提案された策定の方向性の案については、承認いただけるか。承認いただけるということで本日の議事を修了し、事務局に引き継ぐこととする。

【農林水産部長】 食育に関しては、事務局は安全農業推進課にあるが、県庁7部27課が総力を挙げて行っている。参考資料1に千葉ブランドの推進本部の議を得るような、誤解を生じる

ようなことが書いてあるが、千葉ブランド推進本部というのは、農業生産物などをブランド化して頑張っていこうという農林を中心とした一つの会議体、本部である。最終的には、こちらの方で決定するというのではなく、協議会での検討結果を最大限に尊重し、知事が計画を決定するということであるので、訂正いただきたい。

もう一つは、基本的なスキームは、法律ができ、国の食育推進基本計画があって、県の計画があり、市町村の計画があること。この流れは法律で定められていることであるが、その枠の中で、千葉県らしさを具体的に発信する。しかも、県民運動として、我々がただ発信すればいいというわけではなく、県民に実践してもらえるものを発信したい。こういう心積もりで、今後とも意見をお聞かせいただければいいと思うのでよろしくお願いいたします。

【事務局】 協議会の当初にNPO法人でどのぐらい食育をやっているのかとの質問があったが、NPO推進課に確認したところ、やはり、NPOは、17の分野に分類されており、その中には食育の分野はないということであった。しかしながら、NPO関連で、我々の知る限り、どういうふうに食育にかかわっているのか、網羅という形ではないが調査して、作業部会等で報告させていただきたいと思う。

本協議会終了後、早速、第1回目の作業部会を開催させていただくので、部会委員には、よろしくお願いいたします。

なお、作業部会は、今後、1カ月に1回程度を目途に開催し、できれば3月中に骨子案をまとめていただき、協議会に報告いただきたいと考えている。

【遠藤副会長】 これ（未配布資料を提示）は有料の自然体験だが、例えばデスティネーションキャンペーンの中で千葉自然博を開催するが、食についてのプログラムを3つぐらい取り上げている。それぞれが、色々な形で食を取り上げ活動している。ただ、問題は、それが体験のみになるのか、その体験の裏の深い思いが伝わるか、そこが違うと思うので、食育の中で共通の、千葉では食育はこういう思いを伝えたいというものが出てくれば、それぞれが食農体験を展開していく中で、つながりをもっていくのではないかと思います。

【議長】 以上をもって会議を終わりたい。

## 6. 閉 会